



梅室書行選

俳諧題外卷句集

春

5
4119
1



門入 利
號 4119
卷 1-4

俳諧題英發句集

梅室選

梅室

冬

大正七年一月十日
作麻志郎

かくりきし梅さしきその花よ
みほしそ明きしよ秋の月をぬ
ちと波乃隈さし思ひしりもささ
あしきさしれむむよささし
とや梅さしのさぬい海月よ双ふ

もれなき成り

台ふもよりの花のまゝの

京道も種かゝるにまゝ人

まきよりのまきの標柱と

のまきよりのまきのまき

まきのまきのまきのまき

まきのまきのまきのまき

まきのまきのまきのまき

まきのまきのまきのまき

まきのまきのまきのまき

八十七の花巻

まきのまきのまきのまき

五夫

ひとつ花もをねつとるのうらり
神の灯もくくく夫のまーくくま
ままてままもくくつーやまねゆき

芦舟
三巻
混藻

七粒
の夫

井車のまききおやんまのはる
花ふいふとらせうそを粒のま
あーうまーけうまかーを粒の夫
ままの ぬまあまーけされま

如立
荷鳥
赤河

首花

時さへあけし ままてま花のはる
まつかくとねてまらへてままの夫
おいたのーおきて婿ーや首花
古年 女もまきたまーやまねま

出阜
茨山
阜之
小丸

高の夫

高のまをまらぬまへままむーる
あもくく火もおたままやまの夫
ねままままままやうー浦のま

以高
峯叟
怡一

浦の夫

去まてま 門口や侍老といまーま
小まままま交るに去まことー
ま枕のゆまのうららーま
婿やまてまーまままま

孚陽
林曹
文慈
爰来

七夫

初立
初日

もつまのまらり 左右のゆまの山
まらるたけ初らるる平田の山
伏経の伏花こふまて初日の出

松陰
葛牛
紫人

初冬

たむむのもさし平あふきの初り乾
世山つもこころとまきくもつり丸
こころ初りの初る陳ある初り南
初りけさすかききのふる菜
くそ抱しいふるもさしつ
古は平回ふこそまら建初りさみ
ま如のひとつらさしつかす
糖一ぬまらり糖やけつ可を
初人のつまきまやもりかみ

栞西
石寺
中村 住月
汀秀
五支
う危
栞栞
栞栞
栞手

水

明ゆあしし丸まら平昆岩の湖
つらまや笑ひまふさふくさ

一 露
一 勇

初水

ふらさす世やこころの初流尾
人まきし流ふや老のまつ水

一 露
志 栞 女

初時

まつ時やこころよりはるこ急の文
初とり平火をこらつ栞れあ如こ
ひとよきを疎まのや平まつ時

太 七
松 三
栞 三

初時

開くともいおもさしこころ初りす
嵐そよこさき文平まつかす
風は地ふさきさする時平初りす
きく訓一こころ初りす
皇々あいふものあさけつ如ら
うつらうく初りか礼も初りす

美 栞 音
五 木
三 涯
其 友
杏 山
栞 圃

森てるまきをしんるるやうしそつ時 栢主

は降や在しいと連たまうらふ音 栢主

おさうらふ先ころろいんひのみ皇 仙光

は降のまうけちるやまけけけ 茶岡

はさうらやまの溜りも銀ふす 茶岡

おさうらやうらふらふふとまき 止行

おさうらもまきやまき年升夜 岱季

は降の銀麻ふ泥むけけ色く叱 栢正

老うくまは降法したまひんり 行水

はさうらや二ふつまうらふ望き 港山

は降のまきやさうらうけまき 可憐

は降

はさうらやうらふらふらふらふ 栢垣茶屋 淡節

嵐宮よまいたまうらふやまき 栢 栢岳

しに銀まきしむまむまきうら 法行 一泣

はさうらうらまきやまきんむまき 雪彦

は降

年礼

年礼や人うらふく畑乃し風 栢月

年礼や勢勢はまのうけあま 杜入

おしき磐磐まやあけけはまき 一々

おさうらまきうらまきしむまき 晩秋

晴うらまきくむひとまはんいん 楓主

は降しむおまひまうらのはまき 不西

は降

門松
北條
門條
福條

旨菜

門松平松の才ある赤松
うつくしき葉を挿し松の
お生の世並りよあるや門松
福條平拭もの釘ハ定ぬ
ころきくを踏立へ塔の塔出
こかきくやまきくもさ
福々けくやひとつまきく
海老尾の旨菜のくけたき

柳葉
鹿代
柳葉
栞立
杜松
赤松
大夏
白尾
杜松
此寸
魯心

福寿州

似くまのせしやうこ
ふく寿字のまきくもね
ふくむけくを敷おせ
福寿字ふんしの
林の本ときわひく
ふく寿州のまきくも

紅波
乙種
嶽山
行湖
文彦
林為

鏡條

かきくもらまきくひ
丸ふくまきく丸ふく
まきくもらまきくひ
まきくもらまきくひ

嶽角
此山
芥金
乙後

蓮菜

孝始

湯澤始

細初

のうそや下ふとらまてく五十
言とひらへちうらや孝とら
こころよ又湯澤とらや初まき
細初や雪のうへなるひを任す
きき初やうらふらう風の巾

杜彦

招陽

粧石

九起

了志

鬼志文

多祝

うらまふ初ふまてく鬼志文
こころよ又湯澤とらや初まき
湯澤とらふらふ初まき

等明

成風

里作

石葉

石葉中川ふまてく石葉
まじらぬお子ふ種る笑うほく

美玉

映鏡

鬼假師
担云

ひと候し石葉ふまてく石葉
まじらぬお子ふ種る笑うほく
笑ひく来る石葉ふまてく石葉
石葉にきのおまふまてく石葉
石葉のまじらぬお子ふ種る笑うほく
まじらぬお子ふ種る笑うほく
石葉の神うけけるまじらぬ
石葉にきのおまふまてく石葉
石葉にきのおまふまてく石葉
石葉にきのおまふまてく石葉
石葉にきのおまふまてく石葉

種洋

玉葉

玄鬼

明尾

枝村

文葉

文葉

開糖

此招

静柱

志葉

大夏

花つるの如くはよき葉やもむ伎
木くし松枝すよき葉はくきさ
ゆるやうの如くはきくくをう南
古御よよきれはよき葉やも葉はり
神農の像あり

花つるの如くはよき葉やもむ伎
木くし松枝すよき葉はくきさ
ゆるやうの如くはきくくをう南
古御よよきれはよき葉やも葉はり
神農の像あり

花つるの如くはよき葉やもむ伎
木くし松枝すよき葉はくきさ
ゆるやうの如くはきくくをう南
古御よよきれはよき葉やも葉はり
神農の像あり

七種

こまのこまよきくあるきよ仏の座
いつもこのふたしあうのき可南
七種の畑やまつまをけよあする
井戸たうい小枝村えせうあつな
くふくとして扱もつくさよきさ
あくさ中葉つもらひつ整ふ出つ
是トき名ハセくさにもまふん
よえくし明りおとやうつあつれ
あをあらしあうのきさすあつあ
あやされし梅のけしあすさ
二葉

送

あつあもあしあうのきさすあつあ
あやされし梅のけしあすさ
二葉

うゝいさや おもひをぬきし 車のおき
棧や うゝいさや こそかきまへし ともくもの中
うゝいさや ころは 船をま 船乃 梓
うゝいさや ころは 船をま 船乃 梓
船乃 出や 船一 ぬきま ころり
船乃 出や 船一 ぬきま ころり
尾をたえ ころは 船をま 船乃 梓
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり

城寺
屏障
船云
井右
布衣
七月
蓮宇
布衣
立
沙手
太甫
花巻

うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり
うゝいさや 船一 ぬきま ころり

浮及
末屋
末末
抱山
孤舟
具山
飛遊
立規
義香
茶丘
年々

題蘇舟御

昔ふきこゑもやふくよまふくも
昔きこゑもくらくらゑもやふくも
くくひすのやふくくくくくく
昔もねし飼まふくくくく
木間もるりやふくくひすれこゑの池
昔や昔にかゝるくくくくく山
字久ははのふくくくくくく
昔しとをくくくくくくく
昔のくくくくもあふくくく
くくひすのふくくくくくく
まふくくくくくくくくく

閑庭

定徑
六半
梯正
石岩
高并
号高
築高
一
大
茶山

くくひすくくくくくくく
くくはすやふくくくくく山
昔のき昔や風のきくくく
昔や松ふくくくくくく
来洲くくく昔もくくく
昔や昔くくくくくく
くくひや梅ふくくくく
くくはすやふくくく

以
白
如木
月坡
友耕
宗三
梅丘
梅尾

詩
詩

詩もあふくくくくく
こまひくくくくく
昔や垣のくくくく山

西坡
表
糸息

き

くら風の止や夕なりよるきさるる

依山

中し晴や朝はらうきれたはきりけ
波つらく陸子やひとあひとあきり
陸子あきやあきあきつふのかつ山
ま明の本陸きるやきしれこえ
やうげのもよきうてきしあきのあ
きしあきやは城の登のころうつ
岩より陸子の登のさきおと
あきりてもあきりてきしあきのあ
山のきしあきりてきしあきのあ
陸子あきやあきあきつふのかつ山

志風
波日
比新
月孝
瓶周
夏地
教夫
淑月
百子
か之

陸子

きあのいそきりあきりて天と来りぬ
並松より列をさききりれこえ
陸子あきりてきりあきりてきり
むくつあきりあきりあきりあきり
うへ下のあきりあきりあきりあきり
うへ下のあきりあきりあきりあきり
風の来てきりのあきりあきりあきり
岸よりきりあきりあきりあきりあきり
きりあきりあきりあきりあきりあきり
つとてあきりあきりあきりあきりあきり
山裾よりあきりあきりあきりあきりあきり
あきりあきりあきりあきりあきりあきり

立
桑に
梅志
魚糸
巻糸
有津
義り
古教
孝子
天胡
孝卿
九起

新のきしを木匠にぬおとす也 大等

新田やききもひとつあけす也 梅色

おききしてぬおとす也 陰危

よきとれを江のよとせむいさう也 老陰

あよりけうつてあゆむもきき也 瓶周

中ふふききちらきき老う南 美竹

あふそくれききさのうくや聖のあふ 起印

あふそくれききさのうくや聖のあふ 百可

あふそくれききさのうくや聖のあふ 片嵐

あふそくれききさのうくや聖のあふ 尺外

あふそくれききさのうくや聖のあふ 季蕨

重光

ひさしをやかくき里ありまの丈 玉洞

あふあけてこゑのまきもきき也 未堂

夢の端の中うおするおとくも也 栲静

おおろききまきれそくやあけき也 聖文

まのうそくもてききおふも也 洗心

ゆきやきしうつるひさしや桶の口 竹左

こくきよよよよよよよよよよ也 万古

よききものまきもきき也 栲静

あふあけてこゑのまきもきき也 万古

あふあけてこゑのまきもきき也 栲静

あふあけてこゑのまきもきき也 万古

あふあけてこゑのまきもきき也 栲静

あふあけてこゑのまきもきき也 万古

あふあけ

あふあけてこゑのまきもきき也 万古

ちりりよゆ葉のたちちり梅の急
 出むくふや巻えさしちのちり林
 梅林出いんさるやむきれ気
 急ちりちるや 恥まへ梅自ふ
 ちりよ古志さしもちりちる時

梅りふてさうはまにふる耐布か
 と新柳く振とおもへす梅の急
 ちりよ礼て梅の急とく戸口外
 は梅のおくの梅間やうるん林
 ちりひくの急つちりちり梅の急
 梅林うさたひと木さみちり
 布ふさむいもまや梅ふとちりち

垣根よもちりちり梅の急さく風
 花のちりき梅よきいまるふ知比外
 ちりよさるふとのちりさや梅の急
 梅りりの急てさしちる梅の急
 ちり梅中ちりちり梅の急さしちり
 吹たきさ梅の急のちりちり
 つちる子のつちてちりちり梅の急
 石ころさち刃板やちりちり梅の急
 梅をさしちりちり梅の急さしちり
 ちりさくち梅ちりちり梅の急
 ちりちり梅の急さしちり梅の急
 ちり梅をさしちりちり梅の急

吟
 杏園
 李
 首丸
 寸草
 辰丸
 布
 林
 蕨
 菜
 菜

やふとあまひくもあいな梅のまゝ
まじりてあまひくもあいな梅のおく
古鏡
一山年

心紙の讀心符の用

梅のふゆ 蘇もむきもさへ 硯下 南
又もさへ 又もさへ ものさへ 雪の梅
よそふ 雀へ 鳥種も 柳のま
らりのけけうあへ 流きも 田のま
梅よきすりののさへ 又もさへ 柳のま
大山よ 春中を 又もさへ 梅のま
石まのうりも さきも 又もさへ 柳の上
この池を 又もさへ 柳のま
枝ふくのよきも 又もさへ 柳のま
九華

あまひくもあまひくもあいな梅のま
細るも 又もさへ 柳のま
も 又もさへ 柳のま
山まのうりも さきも 又もさへ 柳の上
あまひくもあまひくもあいな梅のま
又もさへ 又もさへ 柳のま
たふのまも 又もさへ 柳のま
まもさへ 又もさへ 柳のま
梅のまも 又もさへ 柳のま
主人のまも 又もさへ 柳のま
月も梅のまも 又もさへ 柳のま
うつそ

多日月梅

神代くらりて志しむ月と梅
と降りし雪ハるを引て月と梅
絶望もきくやうとらうらう月
うけまへもかきふるん地や月の梅
門先の梅はさきまらる月あつ南
東西をこえて梅をむむや梅の月
陰あきうとらうと梅の月あつ南
梅うきも月もさきまらる十五

義秀
乙代
傳文
如柳
志才女
三林
忠堂
徳孝

中梅

又てのきも梅はりの来るを梅は
おとくも梅はりの来るを梅は
山多のなき尾はらうのくるを梅は

晩秋
西坡
尾雪

紅梅

形てりあやや梅の一本はひ
小風をさるるて一月とを梅は
咲てくら木ふくおらく即梅は
又とてて梅の枝をさるのくるは
志す梅や雪の真中またはひと木
大くはまらへおゆくのくるを梅は
さるおとくも梅はりの来るを梅は
さ山ふさしうみわる即梅は
さるおの出来て見寄るを梅は
お梅やおはひきつる梅は
のりとけしお梅はりのくるは

志才
李海
柳塘
雪舟
そと
立寄
眉山
孤清
梅堂
赤師
曼珠

栞柳

渚のしと葉えおろせしうら 柳 暮海
犯のそくはく礼いうえ 柳 河曉

波たなはは海よはし

はたけいふじし

栞柳 みるらち松そや草りく き水 羨山
うら柳 抱い 荒海の戸くら 春 女多
見るよふい 犯との臨 やう色 柳 天沢
柳とハ一 畦たうきーのう色 蕙遠

柳

風ふくしこ木てまき 柳う風 燧乞
七八りまうし月かくきやあまう南 万儀
いまういもあまき下坂の柳 丁宗 素芳

波よけの岬木の中のやあき 赤 栞石
ひきしたるこ敷せをそく 柳う風 栞叟
あまそやきよふそていぬるや色 空 岐棟
貸のと陸くちもせややあまき 武 毛武
柳ふくきーやをぬてもりの群 収文
えい 田子 栞のゆらうし 柳う南 始風
芽そふいし 守妻よある 平法 柳 杜鶯
ひと在にこえい ひろの 柳うな 凌山
ま柳 やふハとわらうなまーの 互 孤舟
塔のうけと 秋ハまつきー 柳うな 寺乘
大むらうの 境も 柳 ひときうり 音舟
のしとくと月もうこうな 柳 明美

おろくのもよまよハなむら松々風
ふき太のりやうこややおら横
一アしてえんとえんうう松津もき
押ふとふもやなれたまふつうよふ
山角平谷へくやうふなはさる
おろよまよしゆつきんうおら横
おんまよしゆもまへる松平南
波文

松のま
おろくさや 持つて 松の上
風のちたりをこぼしんう松乃毛
休 関 波 文

下崩

下崩えいはいふきれさくも

波文

若叶

若叶をばらばら

梅 深

妻の叶

こまきくよ名のつとを交此字

木 公

葎の葉

おせうアアアアおきく又葎の葉

友 耕

七草

はくくくくくくくくくくくくくくく
おろくさや 持つて 松の上
山 畑 又 似 ころ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ
似くまのまぐくくつまるはくくく

志 夢
笑 浮
梅 花
其 花

招法

山菱

指しくらし格と葉のつく古草の外
もきよき木の葉つらなく招法草外
森上戸よあましく一ほさすさひハ

主布
る糸
四岐雄

細抄

細うららの火くやかこふや古草の洞
うとひろましくたうそめめをく
やふらそこの回もしくやいつあをましく
細抄やあましくやあましくところましく
こ土志く細もつや山の茶屋
細うちや静をる色くしく又ひく

うつそ
茶友
栞祝
忠在
五木
芳陽

もふまふあましくやふらりの有云外

雅洋

中夏入

やふいらのあましく志つらくまきところ
中夏入や門挨拶よひまのい
五ふりや親子まふくまきま
やふりや我家のあましくたう板
あましくやあましく津まきま一まい
やふらまやまきつまほりのりちま

鸛毛
あま
末玉
善瓜
五岳
月坡

美の丸

内ふみると葉のおとらへやまの雪
雪くら美のつまやまのれ雪
まのの丸や森まの鏡みねま

三岳
巻因
蟻乞

子さ

いせらうく葉くまきまの志ま

省群

ありぬは松葉のほしとまのしんま
ききくうしとまのまのひくうし
つひんしとまのやまをたなと母
松ヶけのまのしんまはつと問々外
ぬたをまのしんまをいさるまのしんま
よきまののはいしんまのまのま
升垣入狩るまをまのまのしんま南
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま

五福
毛程
太甫
真哲
柳埜
松波桂
七世
在業
等者
志白
狂洋
初業

美さ

沫雪
美北雪

あまの雪やたまのうへのうすま
地はあまのまのまのまのまのま
ぬたあまのまのまのまのまのま
何しとまのまのまのまのまのま
松波のまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
雪のまのまのまのまのまのまのま
よのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのま

涸原
島朴
志流
兔外
布山
和堂
斜甫
まのま
太甫
まのま
まのま

しほくよ志わらまらるる月
積々けと夜木をくればはる月
旭峰

ふと低く清つらきまきまき
ふくまきまき我もかきまき
閑楽

幸飯の飯さしききしすまき南
かきむらや船ふふまの針仕す
紫舟

波ちもきこえてかきむぬまかき
もれきよまきのかよまきふき
天須

松のこえとまのくくまきまき
おろいこまきけるひえのまき
檜石

まきまきつらまきまき
まきまきつらまきまき
布山

ま

は光の影をうまきかきまき
池の利くまきまき
布川

えいあまきまき川やかきまき
まきまきの一りまきまき
若月

かきまきまきまきまき
ひやまきまきまきまき
一松

鏡をまきまきまきまき
まきまきまきまきまき
文松

まきまきまきまきまき
まきまきまきまきまき
文山

まきまきまきまきまき
まきまきまきまきまき
文山

東山よりひらけりかきむ山をくれ
ひくふきのまきくしゆるやゆき
おのくまむまきるぬよさくかきみ
引まきくさの棟木やゆふき
雪の間とおゆふさくや月まむ

おのくまむまきるぬよさくかきみ
引まきくさの棟木やゆふき
雪の間とおゆふさくや月まむ
三井ちやそこいゆいもかきむ鐘

陽炎や石をくかとのまきむ
陽炎やあきかかんよまきるまむ
ろけろふをまきくまきくまきく
かかんふよまきくまきくまきく

陽炎や石をくかとのまきむ
陽炎やあきかかんよまきるまむ
ろけろふをまきくまきくまきく
かかんふよまきくまきくまきく

陽炎や石をくかとのまきむ
陽炎やあきかかんよまきるまむ
ろけろふをまきくまきくまきく
かかんふよまきくまきくまきく

陽炎や石をくかとのまきむ
陽炎やあきかかんよまきるまむ
ろけろふをまきくまきくまきく
かかんふよまきくまきくまきく

山
さねひらのまきくまきく山
茶山

陸まむ

陽炎や石をくかとのまきむ
陽炎やあきかかんよまきるまむ
ろけろふをまきくまきくまきく
かかんふよまきくまきくまきく

陽

山

美の山

まらまらいあらしや美の山
夏をこよ西の山と山と
人のまけをさしと山と
美の山とまらまらと
藤の牛のせやつぎや美の山
福やうまうまう美の山
松をうまうまうの涼山と
里をうまうまうはるの白
まらまらや花のぬくまう
まらまらや葉のぬくまう
まらまらや葉のぬくまう

頼南
夏印
栲先
栲山
東林
月夜
雪居
雪居
雪居

美の山

まらまらいあらしや美の山
つぎやうまうまう美の山
ふらやまらまらと美の山
関とまらまらと美の山
美の山とまらまらと

又美
天湖
南山
美芽
栲山
美山
名風
楚川
湖山
柳水

水久らむ

かきうちなる雲を招きし春の水
持ていせしうへる子信やふらむむ
出てくるもしー山乃ら
ふくもくよこくうてふのなるも電

乙 乙
寸 七
瓢 一
五 七

七開

あよいつていしきく七開せや拵の考
のとうや 出ふまを結い 立休くこ
七開せや するよ 然りて 言ねの山
れくらすや 七者ふんのみ 芥子
のとうきよよあるき 阿きたる 極よや

七 開
源 永
甫 山
一 史

永り

清きー山より 水のくれのこと

松 歩

きもこの地よよもしこりくまら外
永きりやいとまのえゆる替換ひ
三井さの鏡えしわするりま 桑
うまつたつ力押もり永ー五松のえ
よる波乃よる間もまきりこきり
永えりをいふりもふらうたの境
森るふきへ早臥るりのをりさか
勢ましくまのふ磯もひまうり
まののふるりかきまのつくま
相替乃よや けりまの人とわ
号きし せむき 行よひをたつ
あふふきとこりさくもてききし

五 松
月 夜
其 於
月 夜
古 鏡
僊 十
河 鏡
布 珮
拵 明
麦 伴
五 松

昔まし

清見

清見の香や 三島の香の夏府汁
もここあせしゆふけりゆく清見の砂

寸也 臣何 千勝 志角 林昔

初卯

春市

信毛

信毛の香や 卯の外の外も春市より
又あはれきたることゑのときくは春市
ちる香の香ふきもくは春市の鐘
耳塚もあはれ生しゆくは春市の香
暖や 香をくくは春市の香
清見の香や 卯の外の外も春市より

井左 砺山 芳英 了慈 古唐 社暮

比月

比月の香や 卯の外の外も春市より
又あはれきたることゑのときくは春市
ちる香の香ふきもくは春市の鐘
耳塚もあはれ生しゆくは春市の香
暖や 香をくくは春市の香
清見の香や 卯の外の外も春市より

春海 栲山

掩月

いつらまきし 子離おやし 掩月
坊つらまきし 子離おやし 掩月
やくそくの 知うをきけし 掩月
朝を礼も 夕を礼も 掩月
清見の香や 卯の外の外も春市より
ゆきよの 州より 掩月
ささ波の むらふ上 掩月
松うせの 押もきくこと 掩月

江波 胡風 臺色 五色 比雲 北真 岳二 栲山

松ヶせや 二おろやんておろ月 末
 けにのせもひ 出されす 猿 月 百可
 ひもくま 末 々きもや 柳月 燕印
 うち志不とさるほと月の柳々外 英枝
 程子ひさしよく瘳いうへや 柳月 溪
 如茂川の苔上へ出てもおろる月 林坡
 柳妻をもちていもく 二日月 ト僕
 音聞のうちみらおろるめくは外 天胡
 るふくや 柳花 一足もとりん 蕨
 柳ふのほくす 明へ 管 島 糸外
 柳雷やふしんふさふさふ田のつる 柳
 柳雷

出代 出代やふくくへし 足る屋の松 ち之
 出るハロヤ するの風のとまともを 小園
 出かきくや 先おまつきに 残る 柳 染に
 出代やとさしふをき夕こころ 未明
 正月の末ハつきんりふつう 楓下
 二日を云つて 出来たり 柳を 華畝

二日 大風をかくふけし 出る小路 柳 松流
 いとおまきまきつや 風のひらへ系 堀海
 船まらもよいところをいふのり みるも
 いらあける子のふくろる 年子代の松 木也
 いふひまつこころを山のゆふり 是也

残考

唇の
うそ

丁
風

引
替

又さしとよいらよゆりしるの丁
 仰くかろそそなくまきやき一ぬ
 おきくねよ丁のまられやきり和
 秋さけしきてる丁のまられを
 田一秋をえせれまらりのまられ
 耳たてしよそそむや一の丁
 唇風をやみまらりしよそそ山
 丁おろやまらりしよそそ
 引つるやひとそそつるのまはらひ
 替ひえしあそやまらりのまらり

系竹
 子陽
 谷川
 三林
 業尾
 北兼
 舟海
 可楚
 雪箭
 る山

蝶

かつ蝶や考ひと短のまのま一
 はつ蝶やまらりしよそそ
 かつよや火をまらりしよそそ
 川よ柔のそそそやよふのふゆたつ
 けりし胡蝶まらりしよそそ
 蝶のまらりたけりしよそそ
 ますまらりしよそそ
 蝶おやとこへもまらりしよそそ
 ふゆとまらりしよそそ
 りのまらりしよそそ
 まらりしよそそ

風光
 谷多
 明ら
 畦風
 芦舟
 柳汁
 末ら
 狂洋
 河境
 一芥
 竹簾
 赤夢

注

岸をくゞやき犯さるるもてふふし
 うこくものゝ外ふてふまゝ川畑
 権しよつ登るゝ登るゝ登るのまゝ
 下ふゝの沖うふまゝ和歌の浦
 ついてふてゝやこの権とありふん
 びきまゝふまゝものゝやゝ風の標
 さひいゝてふも生てゆゝ鹿の鹿
 下ふゝや伊花り子語のりやゝ
 てふゝまや西りまゝゆきつくゝ
 まゝらやくまゆゝ標のたゝいゝ
 標ゝ火をいゝゝ方ゝもつかはり
 まゝ江

柳嶋
 子
 指
 鹿
 三
 五
 者
 柳
 梅
 北
 港
 岳

姓の子
田原

まけのさすやかまつの春たむむ
城内や田もあるやうよ皆かみつ
田へ入し木葉わたりや姓はく
り特をむけうへきくかまつ
唱やうし姓のまらぬのわさう
湯もさうのさちさうきく姓を
なくもさうし唱止さうかつか
家門はよま田津支や唱うま
くらきもやうしをさむさく
こるさすしわさくまる姓下南
さうさうさうもわさくかの子
田原はまらまらうし持を

三吉
木尾
米俣
さくら
才也
栗柳
高英
月左
仔細
素色
岳山
半和

名
船渡

名船やさすうよさき波きやう
船くさの中をいそぐさう

百右
末至

子
花

さす月よさうり土しりるさう

甚良

義
角

字原やさすまらうさう

英皇

初
巻

さつさすやかあひまらう

李暖

初巻
初巻
はつさう

香舟
如鬼

初巻
りしやう

辞川

初巻
えいさう

流民

初
巻

接木

きふーてふ礼ハうこらす 待つさくら
るのひまゑのひまふり 初軒久ら
とふーまふりまき木間ふりもつ撥
る山

枳

あまふりーと礼 枳木あふり 柿もけ
雪をそきの林ふおふひつー 枳櫛り
枳ものけはきー木花さくーとー
やふへふふーとらうーき 枳木う礼
ひーとふーとまるはき木のつきりくま
他ーとふむ垣根や 枳枳ハ条うもつむ
くそふーとや 葉の花よけーとつまふ
丹 鹿

葉花

葉のまの加きーとふーとせ 山
葉のま礼や 月ふもくも 街をく
葉のまに 枝くゆーとふさふらふら
葉のまよ 海あけ 三ー川 京 踏
葉のま礼ふあふあふ さまふたふらふま
葉のまの おくーと湯のこく 在 礼
葉のまの 若ハ軒 ともて 戸口 加き
葉のまの のり 埃 まふや 木のー
葉のまの ともふむーとらう 銀のつら
葉のまの のーとふなつや 志う乃 波
子のひらふもむや さまふ礼のひとま
我 鹿

宇治川の中にも細のきり札あり
石垣のきりこころよりきりきりなる
よの州ハなにいへきりせきりす
海原のころはきりし中やきりきり
ニまじりハきりきりものけり
いとよきりのきりしきりし

湖山 東明 三栗 梅流 如珠 射山

苗

苗苗やきりきりしきりきり
くきりきりきりしきりきり
よきりきりきりしきりきり
おきりきりきりしきりきり

弱雙 種芽 菊 一 又

庫杖

庫杖やきりきりしきりきり

行 明

戸の角

つぎ持のふり持てきりきり
とこまてもふり持てきりきり

抱 儀

山鏡

山鏡やきりきりしきりきり
くきりきりきりしきりきり

太 華 着 了

苗代

苗代やきりきりしきりきり
苗代やきりきりしきりきり
苗代やきりきりしきりきり

種 種 種 種 種 種

種部

種部やきりきりしきりきり
種部やきりきりしきりきり

種 部 種 部

種蒨

たふまきやものふくさきあゝ招きあゝ

夢芽

初年

まつまやうやうくくものそく池
初らまや破そそ破よくもる杉

岳二
川湖

恒糸

そめもこのさわりまゝ 秘せんし儀
恒糸やあうまへむーまて口をあく

変重
栗吉

彼岸

ひんしんや猫ふかくきて出の月候
携持てひんしんや西行は

川湖
如美

西行走

西行走 西行もつそまをせ
とらまゝのまじし西行もつそまをせ

川湖

後干

友ハもやかきまきてるる後干は
二地よて森ま外たる志不ひる南

携重
安粒

種

種の間や明ぬらうらう明もれ
尾つそらまてそまや市のひま
種まつままうのふくさきうつき
ひまもるる森のうらうらや畝大山
くしあゝ種ももるるや種の色
西行の猫もふくさきうひまのたま
種市や初うつうたむくまひ
ひまもるる初うたむくまひ

白路
佳七
車海
菫坊
乞文
車海
初月
携持女

軽のき

急よ明てふきこれきー山のおくも
も孔明王巻にもさうてあけふき
際立て、花の志らみきー志のうへ
香の香れ 露中ーつくや明の達
月もわくもれも花明とひよりき
のわさうハのわくてきにあきれ月
もれとせきさうて軽のさうへき

翁 池
鬼 白
魏 周
義 定
柔 雷
太 明
未 山

きりね

あゝ風もひきききみもれてまれりね
さうてふきさうてさうてきききき
波さうき仲へもひくやもれも

天 胡
列 招
多 行

きき

きき

きよなくもさへさいー山のおく
中ーく人目志のひきさうれのも
さうけもあゝれきもれさうー

可 大
松 家
義 光

名はの
き

よりの川にせし晴るやもきくも
くまもーハ松も布もきれさうー山
志さうさうハもれの内さうー山
されて山かさうさうー平あさー山
あささきやー松ももかきさうれのも

ト 山
石 外
松 白
松 家
布 衣

きりねのともーひ 花さつきのおく
ひといきれさあさうーきやもれさ

性 竹
文 益

ちるふよ田も肥きく孔ふもを承
 ちるまの抄もきく花のひらく
 まく礼やうあーのとき達此あ
 るよむそふもふもあるやまの登
 ままこーくくやまのちるまつ
 まされよ川もたきをのひらく
 ちるまもそれよまらせよまもまお

河
 年
 孝子女
 相
 洞
 梅
 九起

こころふく折きまらてあるまら
 ひらもいて山の尾をまらけんら
 まらーまひらくまらやま横
 本も枝もくまらてあるまらまら

雪
 柿
 お
 一

横

ちるまてまらまらよ道のこころ
 多にまらて折まらかくを横ら
 松の間まらて記のまらまらまら
 明く礼やまらまらおまらまら
 昔除のまらまらまらまら
 記のまらまらまらまらまら
 むらまら此小袖まらまら山まら
 まらまらまらまらまらまら
 こころまらまらまらまら横まら
 夕く礼まらまらまらまらまら
 山まら名のまらまらまらまら南

山
 南
 息
 横
 楽
 川
 元
 幸
 本
 行
 栗
 屋

前

柔植

牛の秋

好子香

多入

香

多入

人まじりむきとそらうつーうま

を仏とまんでさくや抑あまき

柔植やよからよもろくね志つ

子はも果たつてまつよなま此秋

つりもたらせよなこ名やよふこ名

多入いふやひる物の只の香

吾鬼左のむきのかひりし毛う南

よよあけてそるや言此ふきこり

萌草のまき葉よまのこ乳うま

折六

玉鉄

布

鷲山

庭

柳涯

桃洞

水

井

まをくやふの無ふくこく礼美

我ふしてんそのもまのこくまを

能ふ抑く志もこくま一平没あう

引あやしくふまよ抑くまのま

ふまてもまをうけるや好のこ

まよりさくらまもまうまく礼文

まよきりのまをくこくま塔の上

好まのまやまきんしとままの松

ゆくまやふままへたむま原風

ゆくまを平まよせまも下ま坂

好まをまをまもまも出ま磯の松

好まの名跡う山のまひく

明く元

仙

旭子

花

花

玉

玉

玉

紫

庭

楽

明

文と

文ちうーくせゆく山のひとつき

桃柳

栲綱

栲綱ほきさどんハと下ーさくら綱

竹新

糸餅

糸餅のもちねもくまうしおももも

の雪女

くさ

くさ海のいふよつまこころお山敷

庭吏

まき

まきおしききをもふませたまひを

栄有

きん

きんやーこころちまうまほころ

月桂

利茶

利茶せーひともをきめて利茶は

茶境

稲荷は

稲荷はうら放下ろ稲荷はれは生

竹洞

安ん居系

安ん居人もうれ安ん居まうりれ

慈路

美の鞋

美をく平坂よりゆゆる美 小うさ

只風

まふよりまよまも子平美をろ

竹洞

層かもの疎きふまうりぬるの純

美六

門を捲き戸ハをれ支の小あうま

柿玉

片つてひよりくまうりまるれを

玉洞

美たやーこころ志きりあり藪の雪

ちうろ

路りのをれ花をからのさくら美

竹洞

